

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領や高大接続改革を踏まえ、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。

- ア 授業力向上 PT を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「ICTを活用した授業展開」や「アクティブラーニング (AL)」をさらに発展する。
イ 各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。また、新しい教育課程の適切な編成と実施を目標に授業改善へ取り組む。
ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。

*** 学校教育自己診断 (生徒)「授業は分かりやすい」(H29: 45%・H30: 49%・R1 : 51%) を3年後には65%にする。

(2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。

- ア 「習熟度別・少人数展開授業」の充実や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。

*** 学力生活実態調査で、生徒のゾーン占有率を年次進行で低下させない。3年後には BC ゾーンの低下率を-10%とする。(H29: 40%・H30: 30%・R1 : 30%)

(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。

- ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。
イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。

*** 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標級の15P増をめざす。

*** 学校教育自己診断 (生徒)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H29: 53%・H30: 50%・R1 : 60%) を3年後には70%にする。

2 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 豊かでたくましい人間性の育み → 夢や目標を持った生徒の育成

(1) 各教科、道徳教育、キャリア教育、人権教育等において、「生きる力」を育む教育活動の基盤としての志学・総合的な学習(探究)実施計画を推進する。

*** コア会議が核となって検討を進め令和2年度試行、3年度完成、4年度検証できるようにする。

(2) 進路指導の充実を図る。

- ア チャレンジ講習(毎週7限)を有効活用し、進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導し進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。
イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100%をめざす。
ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立し、第1希望進路達成率を向上する。

*** 公募推薦等受験、一般受験での合格率(のべ)を高める(H29: 29%, 12%・H30: 13%, 4%・R1 : 15%, 4%) ⇒ 3年後には35%, 20%をめざす

(3) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。

ルール、マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。

- ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」特に大麻等の乱用防止や情報モラルの育成に努め、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。
イ 挨拶・服装・頭髮・装飾品等の指導強化に取り組む。指導にあたり学年間格差をなくす。
ウ 基本的な生活習慣の育成。欠席者数、遅刻者数の減少に取り組む。

*** 学校教育自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあっている」(H29: 71%, 48%・H30: 68%, 44%・R1 : 64%, 41%) を3年間で共に80%・55%にする。欠席者数・遅刻者数(H29: 7650, 6700・H30: 6907, 5329・R1 : 6536, 3143) を3年間で半減させる。

(4) 「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。

- ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。
イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感してできるものにする。
ウ 「港高校部活動の在り方に関する方針」に則り、合理的でかつ効率的・効果的な活動が行えるよう取り組む。学校全体で指導運営にかかわる体制を構築する。
エ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。

*** 部活動加入率(H29: 52%・H30: 58%・R1 : 54%) を3年間で65%にする。

*** 学校教育自己診断(生徒)「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」(H29: 64%, 38%・H30: 64%, 34%・R1 : 60%, 33%) を3年間で80%・60%に。

(5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実

教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。

- ア 「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する校内組織を中心に、未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。

*** 学校教育自己診断(保護者)「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」(H29: 37%, 56%・H30: 40%, 50%・R1 : 37%, 49%) を3年間で2つとも60%以上に

(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む

- ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権3法、府人権関係3条例の成立を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
イ 「グローバル人材の育成」学校経営推進費を有効活用し、国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力の育成をはかる。

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり → 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。

- ア 学年が主導ではなく分掌が主導で校務にあたり、学年は学年団として機能し担任と副担任が協力して、学年・学級指導にあたる。
イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。

*** 学校教育自己診断(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」(H29: 45%・H30: 37%・R1 : 43%) を3年間で60%とする。

(2) 「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る

初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)

(3) 広報活動と地域連携の充実(学校経営推進費の有効活用)

- ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。
イ 国際交流を通して地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。

*** 学校教育自己診断(保護者)「港高校のHPをよく閲覧する」(H29: 43%・H30: 51%・R1 : 45%) を3年間で60%とする。

(4) 働き方改革 教職員の長時間勤務の縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底するとともに、一人ひとりの意識改革を推進する。

*** 時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見																																
<p>回収率</p> <table border="1" data-bbox="170 344 963 492"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>3年生</th> <th>全学年</th> <th>回収率</th> <th>前年度</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>150</td> <td>238</td> <td>192</td> <td>580</td> <td>76.0%</td> <td>91.4%</td> <td>-15.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>206</td> <td>215</td> <td>207</td> <td>628</td> <td>82.0%</td> <td>56.6%</td> <td>+25.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>47.5</td> <td>85.5%</td> <td>92.3%</td> <td>-6.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>今年度は全てのアンケートをオンラインで実施した。(生徒はGoogle Classroom、保護者・教職員はさくら連絡網) 結果として、生徒の回収率が大幅に下がり、保護者の回収率が大幅に上がった。</p> <p>実施対象(教職員・1～3年生全生徒・1～3年生全保護者)</p> <p>◎生徒向け、保護者向けには16の質問項目を設定し、授業や進路指導、生徒指導や教育相談体制、学校行事などについてアンケートをとった。また、教職員へは26の質問項目で振り返りのアンケートをとった。これまで6割を超えることになった保護者からの回収率が8割を超えたことは特筆すべき事である。生徒の回収率が下がっているのは、LHRではなく放課後に各自で回答させたためと思われるが、原因としては、①教室掲示だったために全員が回答するまでのハードルが高かった。②匿名での回収・集計となったため未回答者の追跡ができなかった。ことが原因と考えている。因みに、①については2年生だけが案内用紙を個別に配布したが、9割近い回答率が得られている。</p> <p>◎生徒・保護者・教職員いずれも7割近い肯定回答が寄せられており、一定の教育活動の評価や満足度が確認できた。教職員の集計結果においては、学校運営等で否定的意見が目立っているものの、概ね肯定的意見が多かった。</p> <p>◎集計結果については、生徒や保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析と共に配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図る予定である。さらに、学校HPに結果をアップし、地域・保護者にも伝える予定である。</p> <p>●生徒アンケートでは、全項目で肯定的意見(よくあてはまる、ややあてはまる)が増加しており、3年間の推移を見てもここ数年の様々な取り組みの結果が表れてきていると感じる。但し、回収率は8割に満たないため、それを踏まえたうえで分析する必要がある。</p> <p>【学習面】 「授業はわかりやすい」(68%/+17%)「授業で、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」(66%/+6%)「先生は教え方にさまざまな工夫をしている」(87%/+16%)「将来の進路や生き方について考える機会がある」(82%/+10%)「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」(72%/+10%) 教科としての授業改善と言うよりは個人レベルでの改善が見て取れる。</p> <p>【授業以外】 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(82%/+13%)今年度はコロナの関係であらゆる行事が影響を受けたが、その中でも生徒部(自治会)を中心とした学校側の取り組みが評価されている。</p> <p>【否定的な意見が多い項目】 「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定値が最も低い(56%/+23%)が、それでも昨年度に比べて大幅に増加している。73期はR1:30%⇒R2:59%、74期はR1:38%⇒R2:43%と2学年とも数値が上がっていることに加えて、75期1年生は71%と非常に高い値であった。3年生は文化祭・体育祭の成功が大きいのではないかと思われるが、いずれにせよこの学年も近年にない高い数値であった。今後も生徒の自尊心を伸ばす教育活動を行っていきたい。</p> <p>●保護者アンケートでは、殆どの項目(11/16項目)で肯定的意見が上昇した。</p> <p>【肯定的意見が高い】 「子どもは学校に楽しく通っている」(82%/-3%)「通知票を各学期、各考査ごとに確認している」(83%/±0%)「学校を訪れた時、清掃活動がきちんと行われていると感じる」(82%/+7%)「学校行事では、子供は楽しそうにしている」(81%/-4%)「危機管理について、学校の対応を理解している」(80%/+4%)</p> <p>【肯定的意見が低い】 「子どもは、授業が分かりやすいと感じている」(53%/+9%)「教育相談できるシステムが学校にあることを知っている」(51%/+14%)「いじめについて子どもが困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」(44%/+2%) 分からないという回答もそれぞれ22%、46%あることから、否定的意見が多いというよりは、利用する機会がないため「分からない」のだと思われる。今後も保護者への発信を工夫する必要があるだろう。</p> <p>【生徒本人達の感覚と差がある】 「清掃活動がきちんと行われている」生徒69% / 保護者82% / 教職員68%「授業が分かりやすい」生徒68% / 保護者53% 保護者は概ね学校に協力的な視点を持ち、信頼を寄せていただいているが、この評価に安心することなく、より良い学校づくりをめざした取り組みを進めていかねばならない。</p> <p>●教職員アンケートでは、【以下の質問に対して肯定値が10%以上上がった】保健室(保健G)を中心とした取り組みに大幅な改善が見られる。 「本校の生徒は学校生活を楽しんでいる」(87%/+10%) 「けがをしたり体調が悪くなった場合、適切に処置・対応する体制がとれている」(87%/+17%) 「清掃は生徒と共に実施し、きれいに保っている」(68%/+13%) 「事故・事件、災害に対して、迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている」(70%/+10%)</p> <p>【一方で肯定値が10%以上下がったのは】 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」(55%/-11%) 「教育の動向や社会情勢について、新聞やインターネット等で情報を調べている」(68%/-13%)</p> <p>【また以下の質問に対しては、依然として肯定値が低い】 「教科会において、指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」(38%/-9%) 「学校運営について教職員の意見が反映されるような仕組みがある」(46%/+3%) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(46%/+1%)</p> <p>今年度は特にコロナの影響で業務が多忙化しており、日常的に話し合いをするような時間的余裕がなくなっていることが伺える。また、アンケートや考える会など、教職員の意見を吸い上げる仕組みを整えていく必要がある。</p>		1年生	2年生	3年生	全学年	回収率	前年度	比較	生徒	150	238	192	580	76.0%	91.4%	-15.4%	保護者	206	215	207	628	82.0%	56.6%	+25.4%	教職員	-	-	-	47.5	85.5%	92.3%	-6.8%	<p>＜第1回学校運営協議会＞ 書面実施 【平成31年度学校評価および令和2年度学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの項目において、改善された結果が出ているように感じた。 経営計画はしっかりと立てられていると思う。(コロナの影響が心配) 平成30年度から令和元年度への変化を見ると、大きく改善されている項目は1-1(ア)授業方法等についての検討であることから、教員の授業向上への意識が高まって来ていることが分かる。しかし、(2)にあるように授業が分かり易いと思っている生徒は増加していない。したがって授業改善に努力している効果はこれから出てくると期待される。 評価すべきは2-(3)ウの遅刻者数の大きな減少である。このように指導の成果が数字に表れると次の取組みへの意欲が出てくる。今後最も力を入れていかなければならないのは(4)-イ「学校に行くのが楽しい」の増加であろう。勤務校は女子校ということもあり、学校が楽しいと答える生徒は中学校で9割超え、高校でも8割を大きく超えている。何が楽しい・楽しくないのかの分析、例えば通学している目的や具体的な目標の有無、何か打ち込むことの有無などを調査してみることも良いかも知れない。 高校時代は3年間、長い人生の4%前後で大変短い時間だが、日々同じ繰り返しの生徒にとっては長いもの。だからこそ我々教員からのマンネリに陥らせないような工夫も大切。何か刺激を与え、日々の変化を感じさせることも学校の楽しさを感じさせる一策かもしれない。例えば勤務校では教員のチーム(分掌とは関係のない)が、壁新聞を作成して教室掲示している。あるクラブのちょっとした頑張り、ボランティア活動の報告、留学生の活躍などをA4一枚に記事と写真を入れて、仲間の頑張りをみんなと共有している。記事の中には生徒の思いや感想を掲載した、面白いものとなっている。発行は不定期、現在まで約50枚作成した。今後は生徒有志に取材から記事作成までやらせてみようと思っている。 <p>【学年・分掌マネジメント表について】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの分野にあったものになっていると思う。それぞれの分掌が「生徒の満足度を上げる」という思いを踏まえて、具体的な目標を設定してその達成に向かって努力してください。 <p>＜第2回学校運営協議会＞ 11月13日 校内見学</p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジ講習の様子や、新しく設置された自習ブースを見学 <p>生徒状況等(学年・分掌マネジメント表から)</p> <ol style="list-style-type: none"> 教務主任 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症によって臨時休業等で行事予定の変更が多い。 生徒部(生徒指導) <ul style="list-style-type: none"> 遅刻件数は11月現在で全学年合計1600件。9月、11月で増加傾向。 苦情電話が多かったが、良いことをしたお礼の電話がかかってきて、嬉しかった。地域の力になれるようにしていきたい。 進路指導部 <ul style="list-style-type: none"> 学習習慣をつけることを目的に、今年度もチャレンジ講習を継続。 進路指導部の教員による、実力テスト等伸びている生徒を中心に進路面談を実施中。 10月末の模試は1年生・2年生合計120名参加。 生徒部(自治会) <ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率が低下している。1年生47.1%。これは、例年実施している「全身体験入部」を新型コロナウイルスの影響で実施できなかったことなどが影響していると考えられる。 市岡高校と学校対抗戦を実施(10種目)。 文化祭は3年生全クラスが演劇を実施。 生徒部(保健) <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、例年以上にSCやSSWを使用する生徒の人数が多い。 総務部 <ul style="list-style-type: none"> さくら連絡網の全員登録を実施し、緊急時の連絡等で活用できる。 図書館は、エレベーター前にイーゼルを設置して生徒が本の紹介をしている。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> 港高校が変わってきたと、活気が出てきたと感じた。教職員のみなさんの努力のたまものだ港高校が変わってきたと、活気が出てきたと感じた。 教職員のみなさんの努力のたまものだと思う。新型コロナウイルスで厳しい状況だが、来年に向けて頑張してほしい。 <p>＜第3回学校運営協議会＞ 2月14日(休校のため書面開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で様々な制約があった中で、生徒は学校の楽しさを改めて実感し、教職員の皆さんは一致協力しあって組織的・統一的な指導を行ってこられた事が良く分かりました。 英語検定、漢字検定、朝学習などの学業は強化されていた。・学校行事に対して生徒の自主性は高かった。 「全教員による相互授業見学をさらに発展」については、月1回、学期に1回等の具体的な指標を設定して取り組んでみたらよいと思います。 人間として必要なこと人間力(感謝する、人に思いやりを持つなど)の育成に頑張してほしい。 コロナ禍における教育や活動(SDGs等)の取り組み、教育の現場の先生方への負担が心配(勿論生徒も) HPの活用は新たな形で積極的に取り組んでほしい。・各分掌にPDCAサイクルが確立されています。 教務部の若手教員がよく頑張られたところとそれを認めているというところが、素晴らしい。 生徒部(自治会)→部活動入部者が50%以下について、コロナの影響がこんなところにもまでと残念に思った。部活動で良い思い出を作ってほしいです。 子どもが学校へ楽しく通っているという回答について、「ややあてはまる」以上が多く、良いと思います。 学校運営について、意見が反映されるような仕組みがあるという回答について、「ややあてはまる」以上が少し低いので、もっと仕組みがあるとよいと思います。(今後) <p>【学校教育自己診断アンケートからみる来年度に向けての課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 生徒・保護者からのさらなるアンケート回収率の上昇(回収率UPへの工夫) コロナ禍で失われた教職員の教育活動の評価や検討にかける時間の確保 生徒・教職員の学校の生徒指導方針についての肯定感のさらなるUPへ HPのさらなる充実・更新回数UP・閲覧回数UPへ 清掃活動実施の肯定感をさらにUPへ(教職員・保護者と生徒の肯定感の差) 授業理解度の肯定感をUPへ(保護者と生徒の肯定感の差)
	1年生	2年生	3年生	全学年	回収率	前年度	比較																										
生徒	150	238	192	580	76.0%	91.4%	-15.4%																										
保護者	206	215	207	628	82.0%	56.6%	+25.4%																										
教職員	-	-	-	47.5	85.5%	92.3%	-6.8%																										

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1)「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>ア 授業力向上 PT を中心に主体的・対話的で深い学びの実現をめざし「ICT を活用した授業展開」や「AL」について研修・研究をする。</p> <p>イ 各教科は指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。また、新しい教育課程の適切な編成と実施を目標に授業改善へ取り組む。</p> <p>ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。</p> <p>(2)成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。</p> <p>ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施や成績不振者対策を行い、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。</p> <p>(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定(進路部主導)を利用し、朝学習(教務部主導)を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組を推進する。</p>	<p>(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加 ・ICT活用、主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善。 ・全教員による相互授業見学をさらに発展。 ・授業改善のための校内研修を複数回実施。 ・授業アンケート後の振り返りシートの提出、それを活用した授業改善の取組を推進。 ・AL や ICT を活用した授業を行う教員の割合を増加。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で評価の仕組みを見直しガイダンスを充実。 ・すべての教科で指導と評価の年間計画。(シラバス)を検証 ・新教育課程検討 WT を中心とした検討。 <p>ウ 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く学年団としてチームで指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団単位で、授業開始前終了のルーティーンを作成。 ・授業準備・机上整理についての具体的な指導方針の作成。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習時間の増加をめざす取り組みを実施。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数展開授業の効果的な展開。 ・成績不振者の指名補習を学年で実施。 ・不振者課題の「マスト提出指導」を学年で実施。 <p>(3)全員が英検、漢検の何れかの級または両方を取得する。年次進行で、3年間のデザインを確立する。進路部主導、教科学年が主体</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を利用した学習形態の深化。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなどを用い、アクティブラーニング(AL)的な授業展開を増加。 ・他校との授業交流。 ・クラス数減などで確保できる教室や会議室を有効利用。 	<p>(1) 学校教育自己診断(教員)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」を70%にする。(R1:66%) ・「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」を85%にする。(R1:83%) ・振り返りシート提出率を100%にする。(R1:100%) ・「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」を75%にする。(R1:70%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」を50%にする。(R1:47%) ・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を65%にする。(R1:60%) <p>ウ ベル始め実施率(授業観察時評価)を100%にする。(R1:100%)</p> <p>(2)</p> <p>不振者指名補習・課題等マスト提出指導(R1は学年単位で実施⇒3学年で行う)</p> <p>「授業は分かりやすい(生徒)」を60%にする。(R1:51%)</p> <p>「教え方に工夫をしている」を75%にする。(R1:71%)</p> <p>(3)</p> <p>ア 合格者数</p> <p>1・2年英検全員受験、3年希望者受験となる最初の年の目標を英検2級と準2級の合格者数20名とする。(R1:準2級以上8名合格)</p> <p>1年漢検全員受験、漢検2級、準2級合格者数20名とする。(R1:準2級以上11名合格)</p> <p>イ</p> <p>「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を65%にする。(R1:60%)</p>	<p>(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「評価を行い次年度の計画に活かしている」 55%/-11% (Δ) ・新カリについて教科で検討した。 ・「検討する機会を積極的にもっている」 77%/-5% (Δ) ・振り返りシート 100% (○) ・「検討する機会を積極的に持っている」 77%/-5% (Δ) ・「ICTを活用している」 70%/-1% (Δ) <p>※ コロナ禍の影響か、肯定感がdown。相互授業見学やICTを活用した研修を発展させたい。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指導法について取り組んでいる」 38%/-9% (Δ) ・新教育課程WTを数回開いた。 ・「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 66%/+6% (◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベル始め実施率 100% (○) ※授業開始のルーティーンは定着している。さらなるレベルUPを <p>(2)</p> <p>学習時間の増加をめざす取り組み</p> <p>調査前の学習室開放</p> <p>校内模擬試験参加者数拡大(2年117名)3年(約90名)</p> <p>指名補習実施日数</p> <p>不振者講習…1年10日、2年2日</p> <p>3年…各教科にて実施</p> <p>マスト提出指導実施回数…1年10回、2年2回、3年は実施せずとも提出OK</p> <p>学力生活実態調査のGTZのBCゾーン低下率…1年+3~4%、2年-20%、3年-51%(対1年1回め)</p> <p>「授業は分かりやすい」68%/+17% (◎)</p> <p>「教え方に工夫をしている」87%/+16% (◎)</p> <p>※コロナ禍の中で大きく増だが現状に満足しないで努力する必要あり。</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>※朝学習を利用した英検漢検対策や基礎学習への取り組みが発展</p> <p>1/22 1・2年英検全員受験、(準2級以上37名合格) (◎)</p> <p>2/12 1年漢検全員受験(休校のため実施できず) (—)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 66%/+6% (○) <p>※他校授業観察4校実施</p> <p>※授業力向上PTなどの成果。ギガスクール構想の中でさらなるレベルUPを考える必要あり。</p>

府立港高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・豊かでたくましい人間性の育み</p>	<p>(1)志学、道徳教育、キャリア教育、人権教育等について、「生きる力」を育む教育活動の基盤としての志学・総合的な学習（探求）実施計画を推進する。</p> <p>(2)進路指導の充実を図る。</p> <p>ア チャレンジ講習（毎週7限）を有効活用し、進学希望者に対する講習会を進路部・教科が主導し、個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により生徒の進路実現に取り組む。</p> <p>イ 就職希望者に対しての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立し、第1希望進路達成率を向上する。</p> <p>(3)規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。ルール、マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。</p> <p>ア 「薬物乱用防止」「情報リテラシーの育成」特に大麻等の乱用防止、情報モラルの育成に努める。</p> <p>イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。指導にあたり学年間格差をなくす。</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>(4)「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。</p> <p>イ 学校行事で「人を育てる」</p>	<p>(1)学年毎の計画から、学校全体として3年間を見通した計画へ発展させる。港マップの有効活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度年間行事予定作成前に志学・総合的な学習（探求）実施計画を完成。 <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ講習の具体的なトータルデザインを進路が作成し教科が協力して実施。（進路指導部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために進学主担者がイニシアチブをとる） ・自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用にも取り組む。（1年次から進学講習を実施）進路・学年・教科の密なる連携。 ・学習チューターとしての進学主担・学年主任・進路主担の連携を強化。 ・自習室の確保と自習の計画と運営。（学年主任・学年進路） ・勉強合宿の企画や大学見学や大学施設での自習や講習会の企画。（進路主担・学年主任・学年進路） <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習（探求）の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路意識、積極性、自立心を育み進路を保障。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る。（活躍する卒業生や大人への聞き取りの企画・実施） ・同窓会との連携。生徒就労意識を育成。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施。 ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し進路の各係りが運営実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入。 ・3年間の進路指導マップを全学年で共有し活用。（合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用） ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 <p>(3) 厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室や SNS などインターネットの使用についての講習などを企画。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が率先して笑顔で挨拶を行う。 ・指導に齟齬が出ないよう、生徒に守らせるべき最低限のルール（港スタンダード）を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。生徒部生徒指導G主導。 ・担当者格差・学年間格差が出ないように連携を密に取り、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に努め、家庭連絡や生徒への声かけを心がける。 ・基本的な生活習慣の確立（遅刻欠席への家庭連絡の強化）。 ・担任・学年生指の指導の部分で指導方法を検討実施し、生指部本体での指導数を食い止める。 <p>(4) 必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期（5月中旬の中間テストまで）も工夫する。 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施。 ・地域連携を強め地元中学生との連携を強化。 ・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成。 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定。 ・学校行事への生徒の取り組みに工夫をし、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 	<p>(1) 検討の進捗状況 (R1:30回) ⇒ 30回</p> <p>(2)</p> <p>ア 講習などの実施頻度</p> <p>1年…英数国週1回で15～20回 2年…英数国理で週1回で20回 3年…英数国理で週1～2回で40回</p> <p>長期休業中講習</p> <p>1年…英数国5回程度 2年…英数国理で15回程度 3年…英数国理で15回程度 ⇒それぞれ1.5倍に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取り組みや発信と継続、(R1:5項目)⇒6項目 ・4年制大学への進学者 (R1:35%) ⇒ 45%に ・4年制大学・短大への進学者 (R1:42%) ⇒ 50%に ・公募推薦等受験 (R1:15%)、一般受験 (R1:10%) での合格率を高める ⇒ 公募推薦等受験での合格率(20%) 一般受験での合格率(15%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率 (R1:77%) ⇒ 80%に ・学校斡旋就職決定率 (R1:100%) ⇒ 100%に ・インターンシップ人数 (R1:50人) ⇒ 55人 ・応募前職場見学参加人数 (R1:52人) ⇒ 55人 ・就職講座実施回数 (R1:16回) ⇒ 16回 ・未決定者や専門学校進学割合を減少させ4年制短大進学を増加 その他 (R1:6%) ±0%に 専門学校進学 (R1:46%) -10%に 4短大進学 (R1:42%) +10%に <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習や研修の実施状況 (R2:各学年2～3回実施) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での意見、外部(来校者)評価 <p>保護者「生徒指導の方針には共感できる」を70%にする。(R1:64%) 生徒「先生は協力して生徒指導に当たっている」を50%にする。(R1:41%)</p> <p>ウ</p> <p>遅刻者数 R1(3143件) ⇒ 2800台へ 欠席者数 R1(6536件) ⇒ 5000台へ</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を60%にする。(R1:54%) ・クラブ体験行事の回数を増やす (R1:10日) ⇒ 15日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数 (R1:10回) ⇒ 10日 ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や合同練習、講習会の実施数 (R1:10回) ⇒ 10日 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」を65%にする。(R1:60%) ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」を75%にする。(R1:69%) 	<p>(1)</p> <p>将来構想会議＋コア会議…20回実施 (1月で15回) 次年度年間行事予定作成前に志学・総合的な学習（探求）実施計画を完成。(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>チャレンジ講習などの実施頻度 (○)</p> <p>1年…英数国週1回で各10～20回 2年…英数国理週1回で各20回 3年…英数国理など12講座で各週1～2回で20～40回</p> <p>長期休業中講習 (○)</p> <p>※コロナ禍で課題プリント配布。3年…英理でオンライン15回程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組み⇒3項目 (△) ・進路ガイダンス・進路閲覧質のリニューアル・英検全員受験のイニシアチブ ・継続した取り組み (○) <p>成績上位者抽出面談、SS振り返り会、校内模試、進路HR、進路ニュース発行、保護者向け進路説明会など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学への進学者(3月18日) …47% (+12%) (◎) ・4短大への進学者 (3月18日) …54% (+12%) (◎) ・公募での合格率… 25% (◎)、一般での合格率… 25% (◎) <p>イ※コロナ禍の影響で低調</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率…75% (△) ・学校斡旋就職決定率…75% (△) ・インターンシップ参加人数(0名) (→) <p>コロナ禍で実施できず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募前職場見学参加人数55名 (○) ・就職講座実施回数…12回 (△) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物・SNS進路関係の講習や研修や学年通信での注意喚起。各学年2～3回実施 (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での意見など肯定的評価 ・「共感できる」 70%/+6% (○) ・「協力して生徒指導に当たっている」 66%/+19% (◎) <p>※全教職員が一致協力して組織的・統一的な指導を行うことを継続して実践していきたい。</p> <p>ウ</p> <p>遅刻者数 2762件 (◎) 欠席者数 4218件 (◎)</p> <p>※さらなる基本的な生活習慣の確立をめざす</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <p>部活動参加率 48%/-6% (△)</p> <p>1年生 47%と伸びない。2年生女子が38%と伸びない。男子58% 女子42%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験入部の回数を5日 (△) ・部活動連絡会10回以上実施 ・部活動講習会2回実施 (○) ・港カップ杯イベント0回、中学合同練習会0回 (→) ※コロナの影響で中止 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」75%/+15% (◎) ・「行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 82%/+13% (◎) <p>※コロナ禍の中で大きく増だが現状に満足しないで努力する必要あり。</p>
---	---	---	---	--

府立港高等学校

<p>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・豊かでたくましい人間性の育み</p>	<p>ウ 「港高校部活動の在り方に関する方針」に則り合理的でかつ効率的・効果的な活動が行えるよう取り組む。学校全体で指導運営にかかわる体制を構築する。</p> <p>エ 校内美化に努め、さらに快適で過ごしやすい環境づくりを進める。</p> <p>(5)不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実</p> <p>ア 「港高校いじめ防止基本方針」に基づき設置する行内組織を中心に、未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。</p> <p>(6)「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p> <p>ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権3法、府人権関係3条例の成立を踏まえ、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。</p> <p>イ 「グローバル人材の育成」 学校経営推進費を有効活用し、国際的な視野を育むとともに、問題発見・解決能力、論理的思考力、探求力、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動計画を示し、活動結果の検証を行い1年間のトータルで、104日の部活動休業日を確保する。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段の清掃活動や大清掃の統括を保健Gが行い、特に行事前後の清掃や、学校説明会などの清掃時には、重点を置く。 清掃監督の徹底。 <p>(5)教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> SC・SSWや支援教育コーデや学校生活支援カードを有効に活用。 教育相談会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。 <p>(6)</p> <p>ア 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見据えた人権教育マップの作成。 <p>イ 文化や習慣の違いを尊重する心を育むとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業としてスタディーツアーに語学・異文化体験研修の色合いをプラスする。 交流のPRや広報につとめ、参加者をさらに増やす。 交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、さらなる校内交流を検討する。 生徒の国際交流委員会を活発に機能させる。 国際理解教育に努め、多文化共生の心を育む。 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全部活動で休業日確保 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者「清掃活動はきちんと行われている」を80%にする。(R1:75%) 生徒「清掃活動はきちんと行われている」を60%にする。(R1:54%) 教員「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保っている清掃活動はきちんと行われている」を60%にする。(R1:55%) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会開催回数 (R1:22回) ⇒ 25回 修学支援会議開催回数 (R1:16回) ⇒ 16回 SSWの活用 (R1:4回) ⇒ 6回 <p>(6)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」を65%にする。(R1:62%)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外交流参加者(R1:5名) 7名 国際交流委員会回数(R1:5) 7回 校内交流会回数 (R1:1) 2回 ツアー企画数 (R1:3) 3回 交流参加生徒の報告会(R1:2) 2回 国際理解教育研修回数 ユネスコスクールへの加盟 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての部活動で休業日確保 (O) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「清掃活動はきちんと行われていると感じる」 82%/+7% (O) 「清掃活動はきちんと行われている」 69%/+14% (◎) 「生徒とともに実施し、担当の区域はきれいに保てており清掃活動はきちんと行われている」 68%/+13% (◎) <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会 18回 (△) 修学支援会議開催7回 (◎) <p>※SSWを校長マネージメント予算で導入 (R1:3回→R2:5回)SCも校長マネージメント予算で回数を増加 (R1:11回→R2:17回) (O)</p> <p>(6)</p> <p>ア 「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 72%/+10% (◎)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> webでの海外交流希望者6名 (O) 国際交流委員会開催数1回 (一) 校内交流会回数0回 (一) ツアー企画数 0回 (一) 交流の参加生徒による報告会0回 (一) 国際理解教育研修回数0回 (一) ユネスコスクールへの加盟 (一) <p>※コロナ禍の中で国際交流活動は発展させられなかった。 ※学校経営推進費を有効活用し、eラーニングルームなどの整備ができた。</p>
<p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となり学校経営戦略の具体化を推進。</p> <p>ア 各分掌が主導で校務にあたり、プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止。学年は学年団として機能し担任団という考え方は廃止する。</p> <p>イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。</p> <p>ウ 「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。</p>	<p>(1) 組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コア会議」を中心とした機動力のある組織運営。 分掌を中心とした学校運営を強化し、学年ごとのばらつきをなくし、3～5年後に検証できる学校運営体制を確立。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「担任だからできないとか、副担任だからやらない」を改める。 担任会を縮小し学年団会議を拡大、担任団から学年団へ。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員数の減少を見込み各分掌が校務の取り組み方を考察。 分掌・学年マネージメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、役割分担を考える。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年先・5年先を見通した校舎内施設の利用方法考察。 校務分掌の改編とそれに伴う内規の整備。 生徒指導Gと自治会Gと保健Gの連携。 教務内規の変更と修正。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> コア会議開催回数 (R1:30回) ⇒30回 学校教育自己診断(教員) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を50%にする。(R1:45%) 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を70%にする。(R1:66%) <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての学年で学年団会議を行う <p>イウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教員) 「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」を50%にする。(R1:43%) 「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」を85%にする。(R1:85%) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来構想会議+コア会議…20回実施。課題を検討 (O) 「港高校を考える会」…1回。スクラップ事項の検討。 「決める会」…2回。R1の大改革の次の課題を検討。 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能」 46%/+1% (O) 「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」 <p>※観点別評価について検討をした。 ※大きく肯定感がdown 55%/-11% (△)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年団会議の開催回数が月に1～2回 <p>担任会のみならず、学年団会議で副担任との連携がなされ、バランスが1・2・3学年ともに形成。(O)</p> <p>イウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教職員の意見が反映されるような仕組みがある」46%/+3% (O) 考える会をオンラインで行った。 「教育活動について、教職員でよく話し合っている」72%/-13% (一) <p>※コロナ禍の中で教職員の話し合い活動に時間を回すことができなかったが、ICT上でアンケートを何度もとったり、意見交換などができた</p>

府立港高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(2)「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る</p>	<p>(2)校内研修と OJT の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームによる初任者への研修や支援。 ・経験の浅い教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定。 ・経験の浅い教職員の意見交換の場の設定。 ・提案型の学校運営のための、意見提示ができる機会の設定 ・先進校視察や授業交流の実施。 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 (R1 : 2回) ⇒ 3回 ・教職員研修の実施回数 (R1 : 3回) ⇒ 3回 ・初任者校内研修 (R1 : 26回) ⇒ 26回 ・先進校視察実施回数 (R1 : 4校) ⇒ 5校 ・港高校を考える会・決める会の実施 (R1 : 3回) ⇒ 3回 	<p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチーム研修実施回数 2回 (Δ) ・教職員研修の実施回数3回 (○) ・新採教職員研修の実施回数 18回 (Δ) ・先進校視察実施回数 4校 (Δ) ・港高校を考える会1回・決める会2回 (○)
	<p>(3)広報活動と地域連携の充実(学校経営推進費の有効活用)</p> <p>ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実。更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。 ・中学校への出前授業の実施。 ・広報活動の充実・・・年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチ時期を学校説明会・合同説明会とともに考察。 ・広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を総務部の分掌の仕事としマニュアルを作成。 ・生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。 ・保護者の学校への関心を高め、学校との連携を強める。 	<p>(3)</p> <p>ア 更新頻度 (R1 : 1/2日) ⇒ 3日に2回 (R1 : 210回) ⇒ 230回</p> <p>保護者「HPを閲覧することがある」を50%にする。(R1:45%)</p> <p>中学校への出前授業 (R1 : 4回) ⇒ 5回</p> <p>新規の広報企画数 (R1 : 3企画) ⇒ 3企画</p> <p>「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」を80%にする。(R1:74%)</p> <p>(学校教育自己診断アンケートの回収率を高める(保護者)を60%にする。(R1:56%)</p> <p>学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正(教職員・保護者・生徒の差を15%にする。R1 : 77%・85%・60%で25%)</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p> <p>※情報提供や共有に、さくらメールを機能的に用いることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新回数130回 (一) 「HPを閲覧することがある」 47%/+2% (Δ) ・中学校への出前授業 4回 (○) ・新規の企画数 2企画 (○) <p>※コロナの影響でできなかった分は資料配布等別の形で補った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾対象説明会の実施・オンラインの学校説明会の実施 ・「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」 79%/+5% (○) ・保護者アンケート回収率82%/+26% (◎) ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正 82%・87%・75%で12% (◎) <p>※意識の改革ができたことは有意義</p>
	<p>イ 国際交流を通して地域連携を推進し、地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の実施。 ・老人会などとの地域連携・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流などの新しい取組みの実施。 ・挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校（他地元中学校）と連携した企画を実施。 ・学校経営推進費の活動で、国際交流を用いて幼小中などの連携を図る。 ・110周年記念行事への実行委員会と行内実行委員会の有機的な連携。 	<p>イ 実施企画数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 R1 の2回⇒3回 ・新企画を2～3企画行う ・地域連携活動 R1 の3回⇒3回 ・110周年記念行事への準備委員会開催回数 (R1 : 6)・・・6回実施目標 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動による地域清掃活動の実施 0回 (一) ・地域連携活動0回 (一) <p>※コロナの影響で実施できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・110周年準備委員会4回実施、実行委員会発足、具体的検討開始 (○) <p>※学校経営推進費を有効活用し、デジタルサイネージなどの整備ができた。</p>
	<p>(4)働き方改革 教職員の長時間勤務の縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底するとともに、一人ひとりの意識改革を推進する。</p>	<p>(4)時間外労働縮減に向けた取組みの促進、勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー、ノークラブデーの徹底。 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。 	<p>(4)時間外労働時間を10%削減</p> <p>(R01 : 80時間以上 のべ42人 100時間以上 のべ13人 総残業時間 24439時間 (27465/-11%) 月平均 2036時間 1人あたり月平均 32時間</p> <p>を R2 には以下のようにする。</p> <p>(R2 80時間以上 のべ35人 100時間以上 のべ10人 総残業時間 22000時間 月平均 1800時間 1人あたり月平均 28時間)</p> <p>*すべてにおいて1割減を目標 月残業45時間以内を目標数値に置く</p> <p>労働安全衛生委員会実施回数 R1 : 12回 ⇒12回</p>	<p>(4)</p> <p>(R02 : 80時間以上 のべ32人 (◎) 100時間以上 のべ5人 (◎) 総残業時間 21417時間 (24445/-12%) (◎) 月平均 1784時間/-12% (◎) 1人あたり月平均 31時間/-4% (Δ)</p> <p>※コロナの影響で、教材の配布や、リモート課題の作成など避けられない時間があった。</p> <p>※月残業45時間の意識育成が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生委員会14回 (○)